

予報期間 9月30日から10月6日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 10月2日から4日は、高気圧が日本海から日本のはるか東に移動する。
- 4日から5日は、日本の南に前線がのびる。
- 5日から6日は、カムチャツカ付近に低気圧が留まり、本州付近は気圧の谷となる。

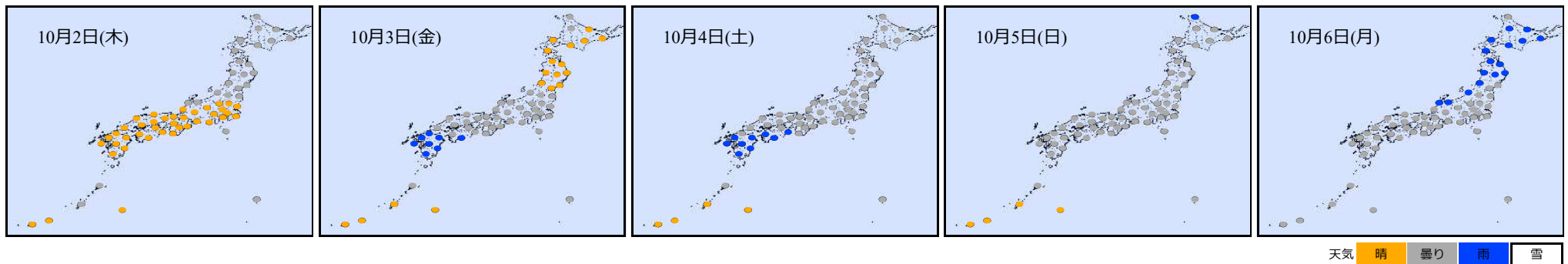
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

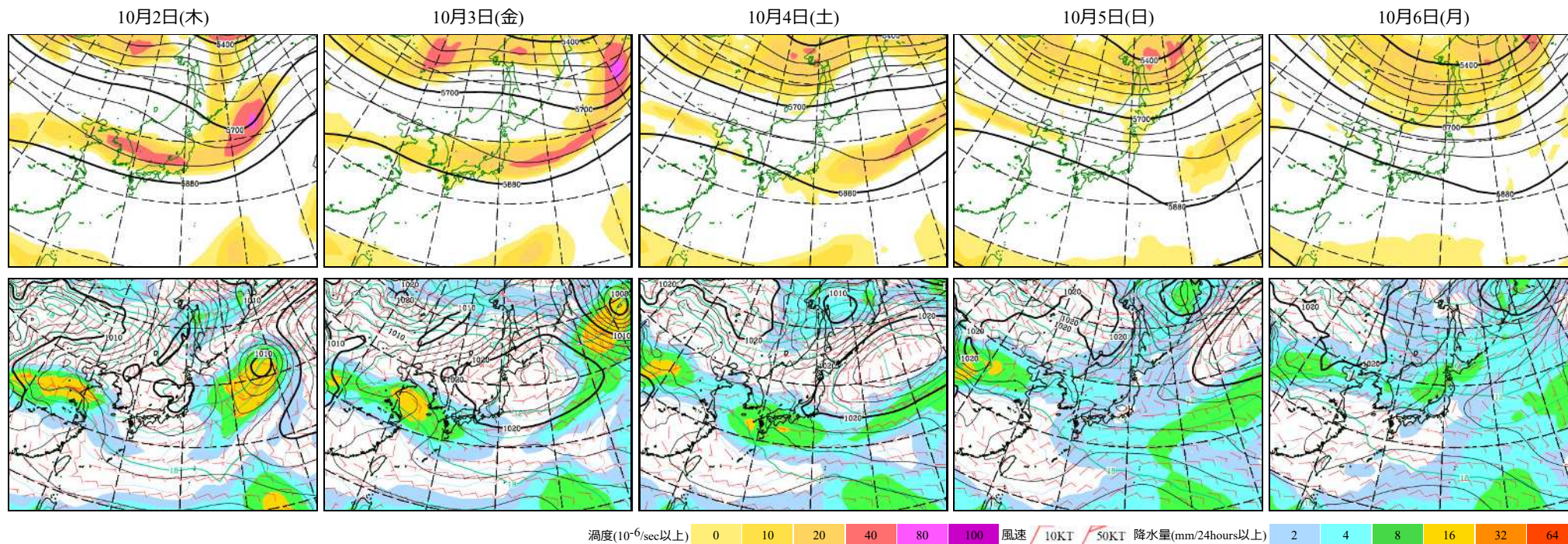
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

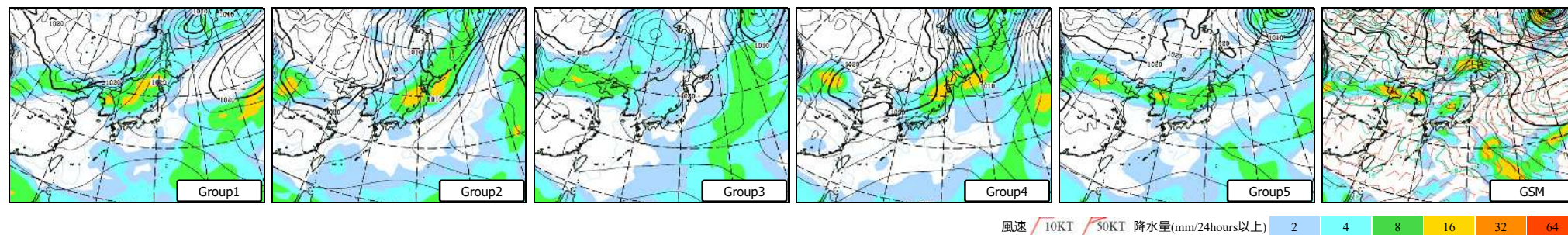


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、10月5日と6日は雨の降る所がある。
- 東日本は、曇りや晴れの日が多いが、6日は日本海側で雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、3日と4日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月6日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10月4日から5日にかけて沿海州付近からオホーツク海に進むトラフの東進が早くなり、地上では日本の東の高気圧の日本付近への張り出しが弱まった。
- 降水確率ガイダンスの値は、4日に西日本で大きくなり、5日に北海道で大きくなった。
- 期間終わりのトラフの東進の速さはモデル間でばらつきがあり、本州付近の気圧の谷の位置もばらつきがある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報はおおむね最新のENSを基に考える。